

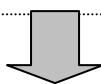
授業改善推進プラン【外国語活動】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

新学習指導要領（◎）に照らした本校児童の実態・課題（●）

- ◎「言語や文化について体験的に理解を深める」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」についての課題
 - 様々な言語や文化に対する興味が大きいにある。
 - 基本表現の習得の差により、ゲームや場面設定の対話の中で自信をもって活用している児童がいる一方で活用しきれていない、または自信がもてず消極的な児童もいる。
- ◎「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」についての課題
 - ゲーム、クイズ、チャンツなどを通して発音や単語、基本表現の習得は楽しんで行うが、それらの定着には欠けている。また、その定着の開きが次への意欲の度合いに関わってきている。



2 授業改善の方策

- 児童の言語や文化への興味を生かす指導に向けて
 - ・「Hi, friends!」のデジタル教材には、世界の文化に関する資料が多くあるので、それらを活用することで、更なる興味や意欲・関心につなげる。
 - ・学級担任とALTの役割を明確にする。学級担任は、積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿を児童に示す。ALTは、ネイティブスピーカーとして本物の外国語を伝える。児童には、それらの姿から、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や伝える気持ちを学ばせる。
- 基本表現や単語習得の定着に向けて
 - ・**チャンツの活用**
基本表現や単語をリズムにのったり、ジェスチャーをつけたりしながら、基本繰り返し発音することで、楽しく自然に声を出せるようにする。また、チャンツを毎授業の導入で行うことで、積み重ねをし、身につけられるようにする。
 - ・**毎時間の授業の流れを確立することで、積み重ねを大切にする。**また、児童が安心して取り組めるようにする。
(授業の流れの例)
あいさつ→これまでの学習を生かした会話→単元に関するチャンツや歌→
単元に関する活動やワーク→単元で学んだことを生かせるゲームや会話→
振り返り
- 授業後に「振り返りカード」の活用
本時のねらいに合った活動ができたか、児童が目標を達成できたかを振り返りカードから見取り、次の活動に生かす。
- 学年、学級に応じてスモールステップで指導する
前時、本時、次時のつながりを考えた指導を意識する。1時間の中で必ず児童全員が話す機会を設ける。
- 学んだことの活用に向けて
 - ・**デジタル教材で視覚的に提示することで、誰にとっても学習の流れが分かりやすくするようにする。**
 - ・いろいろな学び方(チャンツ、歌、ゲーム、絵を描く、クイズ、インタビューなど)で、外国語を使うことで活用の範囲を広げる。